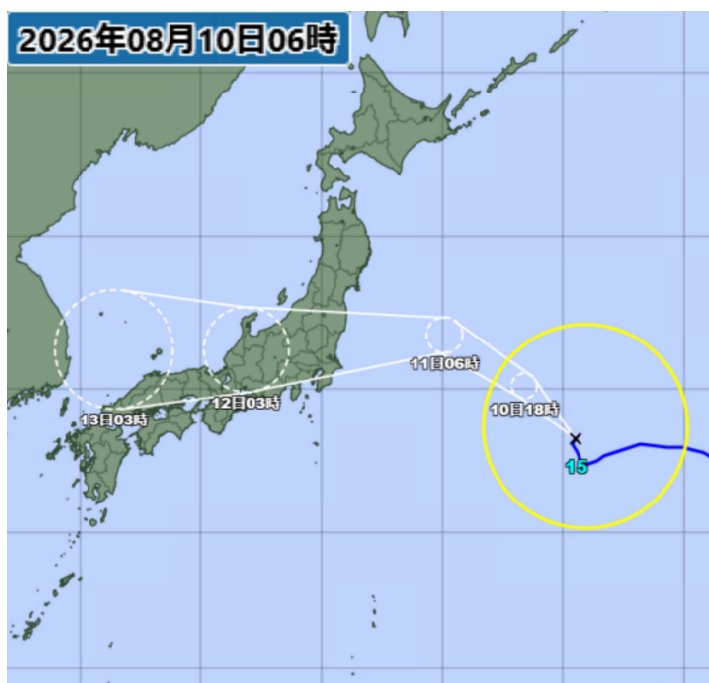


台風15号に対する農作物等の技術対策

福島県農林水産部農業振興課



台風15号が北上しています。
本県には8月11日頃に接近する可能性があります。
(台風の経路図は気象庁ホームページより引用)

今後の台風情報に留意し、農作物等の管理には万全を期してください。
水路等が増水している場合や土砂災害等のおそれがある場合は、危険な場所には近づかないでください。

○福島県気象解説情報（台風第15号） 第2号（福島地方気象台）

台風第15号の影響により、海上では11日昼前から夕方にかけて暴風に、11日昼過ぎから夜遅くにかけて、うねりを伴った高波に警戒してください。中通りと浜通り陸上でも11日昼前から夕方にかけて、暴風に警戒してください。また、福島県では、大雨による低い土地の浸水や河川の増水、土砂災害に十分注意してください。

〔気象概況〕

台風第15号は、10日3時には日本の東の北緯33度05分、東経150度25分にあつて、1時間におよそ15キロの速さで北北西へ進んでいます。中心の気圧は990ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は20メートル、最大瞬間風速は30メートルとなっています。

このため、海上では、北よりのち東よりの非常に強い風が吹き、大荒れや大しけとなるでしょう。中通りと浜通りの陸上でも、北よりの暴風となる見込みです。

また、福島県では、激しい雨が降り、大雨となる所があるでしょう。台風の進路や発達によっては警報級の大雨となる可能性があります。

〔風の予想〕

11日に予想される最大風速（最大瞬間風速）

浜通り海上 20メートル（30メートル）

浜通り陸上 18メートル（30メートル）

中通り 18メートル（30メートル）

会津 15メートル（30メートル）

[波の予想]

- 1 1日に予想される波の高さ
浜通り 6メートル うねりを伴う

[雨の予想]

- 1 1日に予想される1時間降水量は多い所で、
中通り 30ミリ
浜通り 30ミリ
会津 30ミリ
1 1日6時から12日6時までに予想される24時間降水量は多い所で、
中通り 100ミリ
浜通り 100ミリ
会津 80ミリ

[防災事項]

中通りと浜通りでは、11日昼前から夕方にかけて、暴風による交通障害や建物の被害に警戒し、会津では、11日昼前から夕方にかけて北よりの強い風に十分注意してください。

海上では、11日昼過ぎから夜遅くにかけて、うねりを伴った高波による船舶や沿岸施設への被害に警戒してください。

浜通りでは11日昼前から夜遅くにかけて、中通りと会津では11日昼過ぎから夜遅くにかけて、大雨による低い土地の浸水や河川の増水、土砂災害に十分注意してください。

浜通りでは、11日昼過ぎから夕方にかけて、潮位上昇による海岸や河口付近の低い土地の浸水や冠水に注意してください。

[補足事項]

今後発表する防災気象情報に留意してください。

土砂災害や浸水害、洪水害のキキクルに関しては「気象庁ホームページ」などを確認してください。

次の「福島県気象解説情報（台風第15号）」は、10日16時30分頃に発表する予定です。

1 水 稲

(1) 事前対策

- ア 増水に備え用排水路を点検し、ゴミ等を取り除いておきましょう。
イ 畦畔が崩壊しないよう点検し、必要に応じて補強しましょう。

(2) 事後対策

- ア 冠水した場合は、少しでも早く葉先を出すよう早急に排水します。特に、濁水がほ場内に停滞した場合は、早急に水の入替えを行いましょう。
イ 浸水・冠水したほ場では病虫害が発生しやすくなるので、ほ場をよく観察し必要に応じて薬剤による防除を行いましょう。
ウ ほ場内に流木等の異物が流入した場合は、早期に取り除きましょう。

2 大豆及び秋ソバ（播種予定ほ場を含む）

(1) 事前対策

速やかにほ場から排水ができるよう明きょ、暗きょ等を点検し、ゴミ等の除去など

を実施しておきましょう。水田転換畑で滞水しやすいほ場では、必要に応じて畦畔の切削等を実施し排水に備えましょう。

(2) 事後対策

表面水や明きよの滞水は早急にほ場外に排水しましょう。

3 野菜・花き

(1) 事前対策

ア 共 通

- (ア) ほ場周囲の排水溝を点検し、速やかに排水できるようにしておきましょう。水害のおそれがある地帯では強制排水のポンプも準備しておきましょう。
- (イ) ほ場周囲に防風ネットを設置している場合は、ワイヤー・針金の緩みやネットの破損を点検し補修しましょう。
- (ウ) パイプハウスの被覆資材及び止め具（マイカ線、ビニペット等）を点検し、ビニルの破損があれば補修しましょう。
- (エ) パイプハウスやネット栽培等で支柱を使用しているものは筋交いを入れ、補強しましょう。
- (オ) 施設では、天窓や扉があおられたり風が吹き込まないように完全に閉めておきましょう。
- (カ) 雨よけのみのパイプハウス等は強風に弱いため、ラセン杭、ハウスバンド等で浮き上がらないようにしっかりと固定しましょう。
- (キ) 収穫可能なものは、できるだけ台風接近前に収穫しましょう。
- (ク) は種や定植を予定しているものは、台風通過後に実施しましょう。

イ 野 菜

露地きゅうりやさやいんげんは、支柱やネットにしっかりと誘引しておきましょう。なすやピーマン、アスパラガスは、支柱やフラワーネットを点検し、倒伏を防止しましょう。

ウ 花 き

露地栽培では、フラワーネットや支柱を点検し、倒伏や曲りを防止しましょう。

(2) 事後対策

ア 共 通

- (ア) 停滞水は、明きよなどで速やかな排水に努めましょう。
- (イ) ネギやリンドウなど倒伏したものは、茎が曲がるのを防ぐため、できるだけ早く引き起こすとともに、茎葉に泥土が付着している場合は、動力噴霧機などにより水をかけて洗い流し、適切な薬剤散布を行いましょう。
- (ウ) 台風通過後は、吹き返しに注意しながら、施設等の換気を図りましょう。

イ 野 菜

- (ア) 排水後、ほ場作業が可能になったら直ちに畦間の中耕を行い、土壌の通気性を良くし根の動きを回復させましょう。
- (イ) マルチを行っている畦が冠水した場合、マルチ下の土壌水分が過多となりやすいので、マルチを一時的に取り除いて乾燥させましょう。
- (ウ) 果菜類は、損傷を受けた果実は早急に摘果しましょう。ネット等からはずれたつるや茎葉等は、再度誘引しましょう。茎葉の損傷が激しい場合は、新葉（枝・つる）の発生を確認してから摘除しましょう。
- (エ) 冠水や多湿、茎葉の損傷等により病害にかかりやすくなっていますので、直ちに適切な薬剤散布を行いましょう。また、液肥の葉面散布や酸素供給剤のかん注により、草勢回復を図りましょう。
- (オ) 収穫した野菜は傷みがないか良く確認しながら調製作業を行い、被害品は出荷しないようにしましょう。

(カ) 冠水時間が長く回復の見通しがいい場合は、他作物への転換やまき直しを行います。

ウ 花 き

(ア) キクやリンドウなど露地の花きは、風雨により損傷を受けると病害が発生しやすいので、速やかに適切な薬剤散布を行い、草勢回復のために液肥の葉面散布を行います。

(イ) ほ場が冠水した場合は、速やかに排水を行うとともに、付着した泥を洗い流し、灰色かび病等の予防薬剤散布を行います。また、液肥の葉面散布や酸素供給剤のかん注により、草勢回復を図ります。

4 果 樹

(1) 事前対策

ア 現在、収穫期に入っている果樹では、強風による落果や傷害が懸念されるので、収穫可能な果実は事前に収穫しましょう。

イ 立木では、主枝などの大枝が裂けるおそれがあるので、支柱で支え、脱落しないよう枝受け部分を結束しましょう。また、側枝は支柱等で固定すると落果を助長することがあるので、支柱等はずし風になびくようにしましょう。

ウ りんごのわい性台樹は倒伏しやすいので、支柱への結束状態を確認し、不十分な場合は補強しましょう。また、木支柱の場合は、支柱の根元が腐敗していないのかも確認しましょう。

エ 果樹棚（なし、ぶどう等）等の施設は、前もって点検し、強風の前にアンカー補強や棚線の締め直し等を行います。また、棚周囲に防風ネットを設置している場合は、風で飛ばされないように補強しましょう。

オ 雨よけのみのパイプハウス等は強風に弱いため、ラセン杭、ハウスバンド等で浮き上がらないようにしっかりと固定しましょう。

(2) 事後対策

ア 滞水している園地では、明きょなどにより速やかな排水に努めましょう。

イ 落果した果実は速やかに収集し、適正に処理しましょう。

ウ 葉や果実に損傷がある場合は、病原菌の侵入を防止するため、被害1～2日後に適切に薬剤散布を実施しましょう。なお、被害後に定期散布が近い場合は、この散布に置き換えて実施しましょう。

エ 落葉や葉の損傷が大きい場合には、その程度に応じて修正摘果を行います。

オ 倒伏した樹はできるだけ早く起こし、土を盛り、支柱等で固定しましょう。また、かん水やマルチにより根の乾燥防止に努め、新根の発生を促します。大枝が裂けた場合は、ボルトやかすがい等で止めるか、縄などでしばり傷口を接着させましょう。

カ 台風通過後は、フェーン現象により一時的に高温になり、乾燥した風により葉焼け等が発生しやすくなります。このような場合はスピードスプレー等で散水し、樹体温を下げるとともに湿度を維持し、被害の軽減を図ります。

5 畜産・飼料作物

(1) 事前対策

ア 強風による畜舎、飼料庫、飼料タンク、堆肥舎等の損壊、及び風雨の吹き込みを未然に防止するため、屋根、扉、窓、外壁及び排水溝等の破損や亀裂等の有無を確認し、必ず補修等の応急措置を行います。

イ 入り口等が開放されている飼料の保管場所では、飼料をシートで覆うなどして、雨水がかからないようにしてください。

ウ 堆肥舎への風雨の吹き込みにより、堆肥や汚水が流出することが心配されますので、堆肥をシートで覆うなどして、流出を防止しましょう。

- エ あらかじめ停電や断水等の対応を確認し、被災時には自家発電機等による搾乳や生乳冷却等の対応ができるよう対策を行いましょう。
- オ 水はけの悪い草地や飼料畑には明きょを掘削するなど、速やかに排水できるようにしましょう。

(2) 事後対策

- ア 畜舎等が浸水した場合は速やかに排水し、疾病発生予防のため洗浄と消毒を行った後、施設内の乾燥に努めましょう。
- イ 滞水している草地や飼料畑は、明きょなどを点検し速やかに排水しましょう。
- ウ 豪雨により草地や飼料畑で土壌浸食が発生した場合は、早めに修復しましょう。
- エ 収穫期を迎えた飼料用トウモロコシが倒伏等の被害を受け、回復が期待できない場合には、早急に収穫調製作業を行いましょう。
- 調製にあたっては、土砂等が混入しないよう収穫作業を行うとともに、水分調整の実施や、乳酸菌製剤等の発酵促進剤を添加するなどして、サイレージの品質向上に努めましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL 0 2 4 (5 2 1) 7 3 4 4

○農業振興課ホームページ

以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>